

平成22年度 宮崎市立榎中学校学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

大項目	学校経営ビジョン	重点目標	目標達成のための手段や数値目標		学校の自己評価コメント	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価のコメント
			手段や数値目標 ※下線は小中の共通実践事項					
知育	確かな学力の向上を図る	学習指導の向上を図る	指導方法の工夫改善のために、研究授業を各教科1回以上実施する。	※下線は小中の共通実践事項	・道徳、理科、保健体育における研究授業を通して、指導法の工夫改善に向けて研修を深めることができた。しかし、各教科1回以上の研究授業が教科によっては実施できなかった。	2.1	2.1	・研究授業を通して研修が深められたことは、評価できる。全員1回の研究授業実施は、困難であるかもしれないが、教科ごとに1回の研究授業をお願いしたい。学力向上に向けた研修に取り組んでほしい。
			1分前着席、黙想100%を目指す。		・教師の指導の下、生徒会学習委員会が「1分前着席指導週間」を毎月定期的に実施している。全校的に意識はやや高まっている。しかし、指導週間以外においても1分前着席ができるように、その意義について十分生徒に考えさせていきたい。	2.8	2.5	・1分前着席の意義を生徒に考えさせることは、大切だと考えます。意識調査では、80%を超える生徒が「できている」と答えているのは、評価できる。今後も習慣化し、指導週間以外においても生徒に自主的に取り組んでほしいと願う。
			宅習指導の徹底を図り、宅習コンクールを年2回実施する。		・家庭学習において日々宅習ノートに取組む意義は大きい。宅習ノートへの取組が習慣化され、学力向上に役立っている生徒も増えている。しかし、依然として記述した内容の改善が必要な生徒も見られるので、継続的な指導が必要である。	2.2		・家庭学習の時間を確保し、計画的に家庭学習に取り組むことが重要と考える。その点において、宅習ノートへの取組はその重要な実践の一つである。子どもたちが自主的に家庭学習に取り組むよう継続的な指導を期待します。
徳育・体育	自他の尊重や有能感を高める特色ある指導計画の改善	たくましく健やかな心身の育成に努める。	毎朝あいさつ運動を行う。	・年間の計画により、部活動単位(保護者・生徒)や生徒会による活発なあいさつ運動が実践されている。しかし、日常の学校生活においてあいさつ習慣が定着していない面もある。粘り強く指導し、元気で礼儀正しいあいさつができる生徒を育成したい。	3.1	3.2	・保護者や生徒の皆さんにより毎朝活発なあいさつ運動が実施されていることは、評価されます。いつでも元気で礼儀正しいあいさつができる生徒を育成してほしい。	
			集会指導を年5回実施する。	・生徒会や学年委員会に生徒集会や学年集会を主体的に運営させることにより、服装面を正すことや整然と整列することに自覚を持つ生徒が増えつつある。	3.3		・教師主導ではなく、生徒自ら計画し、実践していくことが大切であると考えます。今後も教師の指導も受けながら、自分たちでより良く生活ができる中学生であってほしいと願っています。	
			無言清掃コンクールを学期1回実施する。	・清掃への取組は改善され、無言で清掃に取り組む生徒が増えている。しかし、指導が必要な区域もある。「無言清掃コンクール週間」の設定や日常指導を通して、無言清掃習慣化への指導に努めたい。	3.2	3.2	・生徒の清掃への取組が大変よくなっている。しかし、個人差が見られたり、区域によっては無言清掃ができていない箇所もある。今後時間いっぱいの無言清掃に取り組み、更に清掃に励むよう指導に力をいれてほしい。	
			時間内準備、配膳終了、片付け100%を目指す。	・「給食の準備・後片付けが時間通りにでき、楽しい給食の時間を過ごしている」と実感している生徒が多い。さらに給食の準備・後片付けが円滑にできるように指導を徹底したい。	2.9		・9割を超える生徒が準備や後片付けが時間通りにできるようになり、楽しい給食時間を過ごしていると聞いてうれしく思います。今後も、当番の役割、マナー、残滓について指導をお願いします。	
			教育相談の充実を図り、教育相談週間を年3回設定する。	・夏季休業中は、生徒全員を対象に進路や学習に関する教育相談を実施することができた。日頃から生徒が相談しやすいように、教師がラポートづくりや雰囲気づくりに努めたい。	3.4		・生徒全員を対象にした定期教育相談も大切であるが、悩んでいる生徒の早期発見に向けて、日々子ども達の日常の細やかな観察を十分にお願したい。ラポートづくりや雰囲気づくりに努め、どんなことでも相談のってほしい。	
			各種委員会や中央委員会の充実を図り、生徒集会は隔月1回、部活動生集会は年5回実施する。	・生徒会が協議を重ねて生徒会活動の意義について再認識したことにより、積極的な取組が見られるようになってきた。今後も各種委員会や生徒集会等の生徒会活動がさらに活性化されるように指導に努めたい。	3.2		・生徒に考えさせ、計画させ、取り組ませることが大切であるとする。また、自分の生き方について段階的に考えさせていくことで、さらに生徒の自主性が見られるようになると思う。	
地域連携	生徒の自主性や社会性、安全を高める	家庭・地域との連携による育成に努める	部活動育成会との連携を図り、登校指導及びあいさつ運動を年間20回実施する。	・1年間にわたり部活動単位の保護者によるあいさつ運動が計画的に実施されている。生徒指導担当職員による登校指導も実践されている。下校指導については、定期テスト1日目終了後、全職員で指導を実施している。また、地域との連携を深める活動を計画していきたい。	3.3	3.3	・あいさつ運動は、保護者が学校との関わりを再認識できる良い機会の一つであると考えます。毎朝の登校指導やテスト終了後の下校指導、大変ありがたいと思います。今後は、学校と地域の連携を深める方法を考えていきたい。	
			生徒会を中心に、地域のボランティア活動に年1回以上参加する。	・夏季休業中や冬季休業中にボランティアへの参加を呼びかけている。本年度は、「一ツ葉浜入り江干潟の清掃活動」のボランティアや校舎内外の清掃ボランティアを呼びかけ、取り組んだ。さらに、まちづくり推進委員会主催の行事等にも積極的に参加していきたい。	3.4	3.4	・ボランティア活動は、まだ一部の生徒たちだけの参加のように思います。中学生は、部活動や塾などで、土曜日や日曜日も大変忙しいようですが、もっと多くの生徒に参加してほしい。地域の人と関わりやボランティア活動で学ぶことも多いので、学校と地域との連携がもっと深まるように計画をお願いしたい。	